

# 促成イチゴの安定生産技術の普及

農業技術センター一足柄地区事務所 実施期間: 令和元年度～4年度

## 課題・目的

■JAかながわ西湘小田原いちご生産部(12戸)では、主力品種の「紅ほっぺ」で芯止まり株の発生やアザミウマ類による被害が問題となっており、防止技術による生産の安定化が課題となっている。

■育苗期から定植期の施肥管理の見直しや天敵製剤(リモニカスカブリダニ等)と化学合成農薬の組合せによる効果的な防除体系による安定生産技術の普及を図る。

## 活動内容

■<令和元年度～2年度> 芯止まり株発生防止対策技術のモデル農家に展示ほを設置した結果、育苗期後半(定植 10 日程度前)の追肥と定植後の液肥施用が効果的であることを確認した。

■<令和元年度～2年度> アザミウマ類の防除体系のモデル農家に展示ほを設置し、アザミウマ類とその天敵であるリモニカスカブリダニの発生消長を調査した結果、アザミウマ類を許容水準以下の低密度に抑制し、従来の防除体系と同程度の効果であること確認した。

■<令和3年度～4年度> 展示ほを継続しつつ、結果を基に巡回検討会を実施し、生産部の会員へ両技術の普及を図った。



リモニカによる天敵放飼

## 具体的な成果

■芯止まり株発生防止対策技術は4戸、アザミウマ類防除体系は2戸の生産部の会員へ導入できた。

■技術導入した会員では、芯止まり株の発生が10%程度軽減するとともに、アザミウマ類による被害も防止することができ、出荷量が5%～20%増加した。